

## 鍼灸は21世紀の世界の人々の健康に貢献できるか

形井 秀一

ISO (International Organization for Standardization : 国際標準化機構) は “物資及びサービスの国際交換を容易にし、知的、科学的、技術的及び経済的活動分野の協力を助長させるための世界的な標準化及びその関連活動の発展開発を図ること” を目的に、発足した(1947年2月)<sup>1)</sup>。日本でいえばJIS (Japan Industrial Standards : 日本工業規格) に相当する。このISOにはTMB (Technical Management Board : 技術管理評議会) の下に多くのTC (Technical Committee : 専門委員会 or 技術委員会、187委員会) があり、そこで、生産者や消費者、政府等からの申請を専門委員会として検討する。

韓国がこのISOに鍼の国際標準規格の申請を出したのが昨年秋のことであったが、それは、既存の委員会では検討できないといったん差し戻された。その後、中国がISOにTraditional Chinese Medicine (TCM : 中医学) の審議の申請を出した。この申請はTC215 Health informaticsで審議され、中医学ではなく、East Asian Medicine (東アジア医学) という名前となることで落ちつきつつあったが、中国サイド及び中国に同調する国々から中医学という名前にするという巻き返しがあり、最終的には、Traditional Medicine (伝統医学) で決着がつくと思われた。Traditional Medicineという言葉は2008年11月の北京におけるWHOの伝統医学会議で出された北京宣言そのものであり、北京宣言は、伝統医学が世界の人々の健康に貢献すべく、国や市民団体が積極的に力を注ぐことが求められたものである。もし、Traditional Medicineの名称であれば、世界の多くの国々が賛同したに違いない。

しかし、中国は中医学でないと納得できなかったものと思われた。それは、その一方で、Traditional Chinese Medicine (TCM) という新しいTCを立ち上げるための申請をISOに別途に提出したことに如実に表れている。その申請の中身は、治療用具や薬剤、診察、診断、臨床など中医学全般 (漢方・鍼灸) にわたるものであった。新しいTCを立ち上げる目的は、TCMは現代医学 (Conventional Medicine) とは明確に異なる体系であるので、TCMの索引・検索用語を世界標準化することであり、それは医師のみならず患者もその恩恵に浴するものであるとの主張であった。

この申請を受け入れるか否か、会員各国に賛否の投票をするよう要請があった。

ISOの新委員会設置条件は、投票した国の2 / 3以上の賛成があることが最低条件であるが、必要賛成数まで達しなかった。その結果、TMBは中国に対して、関係する組織 (特に、日本-JISCや韓国-KATSの規格作成関係機関、また、TC215 Health informatics) と協議することを求め、中国が関係機関と協議した結果が報告されるまでは新委員会設置については延期されることが決まった。

上記のような中国の動きに対して、覇権主義的であると批判することは簡単だ。事実、この申請の仕方を見ると、中国は伝統医学を見直そうとする視点、すなわち、民族固有の歴史と文化に根ざした医学を大事にしていこうとする姿勢を示せていない。一見中国の伝統医学 (東洋医学) を大事にし、見直しをしているように見えるが、もはや東洋医学が中国一国の医学ではなくなっていることに思いが至っていない。そのため、あたかも自国の医学、中医学のみを世界医学にしようとする偏狭な目論見を持っているようにしか見えなくなっている。

過去2千年間に中医学はアジアの国々に伝播し、様々な影響を与えたが、同時に、伝播先でその国の文化の影響を受け独自の変化を遂げた。もちろん、変化はしてもそれは中国に発祥した医学であることを各国は十分に認識している。そして、今、中国が、西洋医学一辺倒の世界の医学界にアジア発祥の東洋医学を位置づけようとしている。その動き自体に対しては、東洋医学を継承してきた歴史を持つ国々は歓迎するであろう。20世紀末から21世紀にかけて、CAM (Complimentary and Alternative Medicine: 補完代替医療) が台頭し、世界が統合医療 (Integrative Medicine) を志向するこの時期は、欧米諸国に東洋医学を正しく認識させ、欧米の医療の中に東洋医学が位置づけられる絶好のチャンスであることは間違いない。しかし、もし、20世紀後半に中国が発展させた現代版東洋医学、すなわち中医学のみを東洋医学として中国が主張するとしたら、それは多くの国々にとって組みし難い考え方であり、そのような他の国々の実情を無視したような中国の姿勢に対する失望は大きいであろう。

中医学のみが東洋医学ではなく、Kampo (Japanese Oriental Medicine)、Acupuncture in Japan、Korean Oriental Medicine、Mongolian Oriental Medicine、Vietnam Oriental Medicine など、中国発祥の東洋医学に影響を受け、各国で独自に変化を遂げた多くの医学も東洋医学の一類である。それらは、各国で2000年間にその国の変遷に影響を与え、また影響を受け、内容を発展させてきたものである。理論の重点の置き方や診察の仕方、治療技術の用い方、東洋医学の受け入れられている度合い、等々どれも異なっている。それは、現代中国でまとめられた中医学が、現代中医学誕生以前まで中国が継承してきた東洋医学をより発展させたものであり、それ以前の中国の医学と異なっていることと同様である。中国は、現代中医学は、2000年間の東洋医学を継承していると主張するであろう。それはその通りである。そして、他の国々の継承してきた東洋医学もやはり東洋医学なのである。中国は、中医学を生み、継承してきた国として、アジア並びに他の諸国が継承してきた東洋医学のどれもがそれぞれに東洋医学であることを認識し、それを包括できるような用語や概念を構築する先導役を担うべきであろう。そうすることが、2000年前に中国に生まれた偉大な医学が現代に生きる方法であると考えられる。

医学は人類が生んだ叡智の結晶である。誰もがその恩恵にあずかれるはずである。一国や一団体が自分たちの利益のためのみにそれを利用すべきではない。東洋医学のすばらしさは、生活に根差した医学であることだ。いうなれば、個人を大事にした生活養生医学である。それは、誰もが自分の生活に役立て得る内容を持っていることを意味する。東洋医学が有するそのすばらしさを活かす方法を見いだすことこそ今求められていることである。

1) 日本規格協会、ISO企画の基礎知識、東京、(財)日本規格協会、2005.